

——手にしつしんができたので、診療と薬を
たのむと、「それは町の薬局で売ってるから
自分の金で買いな、あんたは病棟で入院して
るんやからそんなもんには出せない」と断
わる。

この市立病院は、病棟二〇〇名と内科四〇名
が入院している。生保患者が多い。せいたい、
生保が（行路へ行来）、健保など、「社会保険」
というのは、形態は、社会主義的の労働者のた
めにあるもの。だが、その本質は、庶民が、貧
乏人から有効に金をふんじることが出来るよ
うにお上の権力で脅迫するものだ。とはD.I.C
の土方便さんが教えてくれたことだ。

さて、この市立病院、他の人の声を聴こう。
Sさん、二月に、そのヒドサに耐えかねて友人
と二人で自主退院。その後、新しい勤め先を見
つけたが、そこが月給制のため当面の生活費が
なく、ほじめ労働福祉センター、次に更生館に
いく。結果にこうなされた。「お前は市立病院
を脱走、暴力で強制退院になったので、警察保
護の適用はできない。あんまりだ。道を教えた

者と更生館退院の申請者とをやりあめる手帳が
あるようだ——一人送り込んぞ二〇〇〇円と
もいう——が、何らにと、そして、病棟に
お上から——とい、ても税金——金が入る患者
たちにと、また「ベッドがない」といひ
から大部分の病棟相手を追い出し、残り五の病
病棟のようなどころへ送り込む更生館の職員に
と、今日も、多くの者が病棟者として病棟
に苦しんでいる現実が、ゼニでしかないのか。

へつづく

釜ヶ崎手帖(1)

静かな「革命」に消えた派出所

いま釜ヶ崎には静かな「革命」が着々と進行
している。も、とも、静かなと言、ても、相当
の物音はする。しかし大衆行動もなければ警察
の出勤もない、静かなとはその意味である。

区画整理、道路の幅をひろげるのと、いわゆ
る不変住宅をとりこわす市街地改造と、二つの

16

ことも、まして警官をふるった覚えもない。そ
うSさんは反論したからチがあかす相談にくる。
——ヒドさに、病棟の悪い患者ほど逃げ出す。
でないで殺されるんじ、ないかと思う。——
二月の一日月内に三〇人以上死んだ。大工が
時折リヤ、て来て、庭で一言に五のうせのぐ
らいカンオケを作るのが見える。院長が警察
のため警察署者がでても警を打つて居る時は
警察しない。警察の名義の上月課長は、三文
パンを多く持つていて入院患者日用品をこ
まかく、毎月の支払い日へ六く九日、の直前
にトンコ（逃せ）するようにしむけたり。近
くの酒屋の前で喫煙、ていて患者が来るとマ
ぞらヤ、たしと強制退院させ、母所の方には
ハンコを使、て退院の前日に金をわたしたこ
とにしてネコバド、病舎のとなりにある院長
のゴルフ場に入ると強制退院。

このSさんは財政委員だが、大衆出身の働き
ざかりのKさんなどは健康なのに結核と診断
され、病棟の壁をくれレントゲンばかり写され
たという。昭和病棟へ市内住む区からの移住

「公共事業」がその「革命」だ。

道路をひろげる方では、バチンコ屋太一の前
から西町交差点を経て新宮駅前へ、見ればの
かるとおりに、南側がすっかり変ってしまった。
立ちのみの屋の大キーン店細を持つ足立のさ
店や、作業服のマル屋やマル増が、みんな意図
化された。路切の西の、早く意図化された大
のあたりとツラをそろえて、道は太分広くなる
勘定だ。統合センター前の、南西意図化のガ
ドの脚も移された。あのガードには車が住んで
いたのだが、工事中はこへねぐらを求めてい
たろう。

こうした「革命」のなかで、ついう、かり
しているうちに、釜ヶ崎現代史の重要な記念物
がいつの間にか消えた。残念なことだが、消え
てしまった現実の前では、せめて文字に書き残
すしかない。

ちよ、といかめしい町名の記録を少し紹介し
よう。

昭和三六年九月十日、衆議院の地方行政委員
会に警察庁の報告が出された。「西町集団移

17

事件の概要」という報告だった。
そこに、こう書いてある。

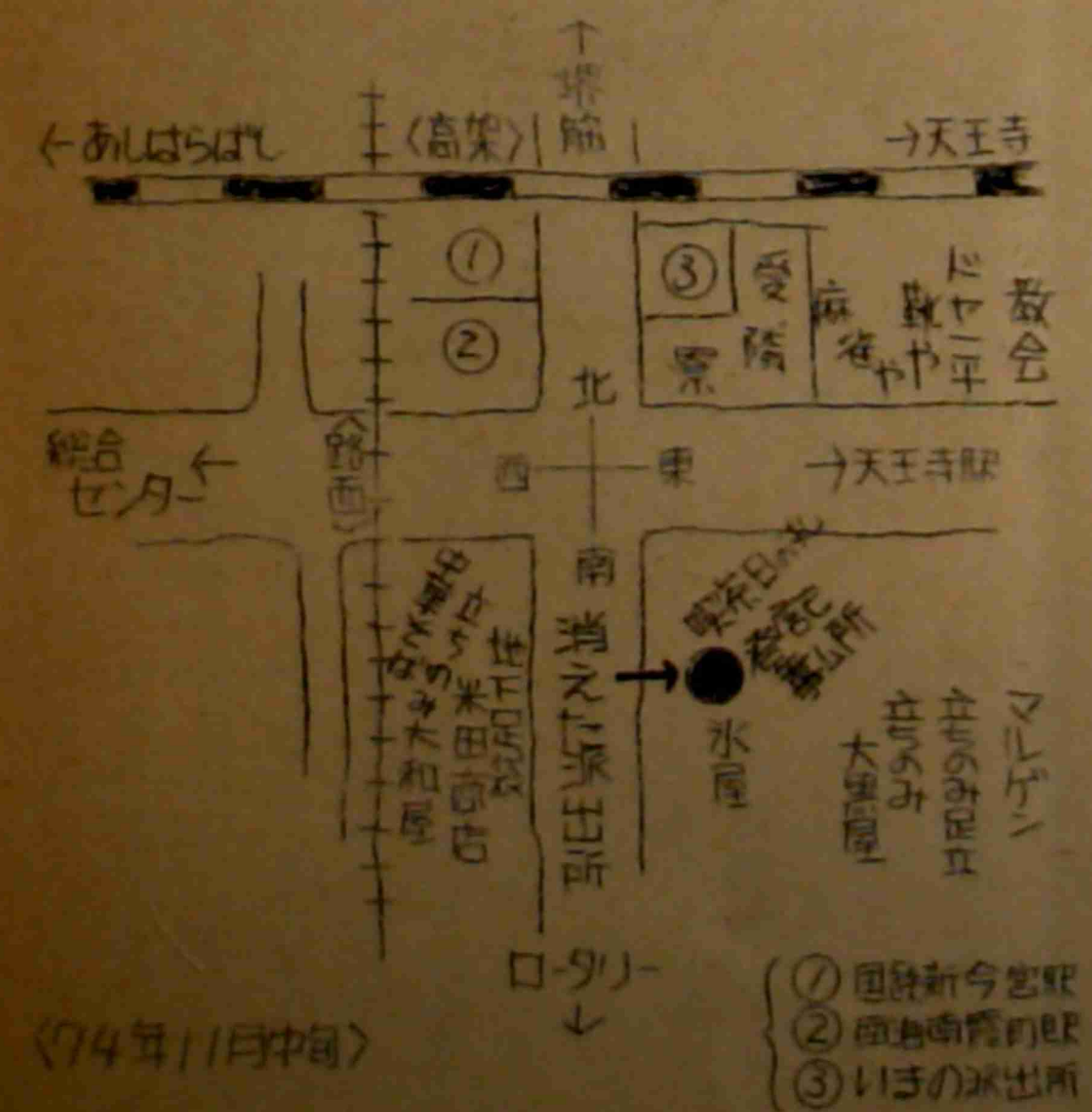
――八月一日午後九時五十分頃、大阪市西成区東田町交差点附近を時速約四〇の軒位で南から北に向って運転進行中の富士タワシ―運転手河野も明（二九才）が、東田町八二番地先路上に運したとき、道路上に佇立していた、西成区東田町八二番地、日産柳田豊造（六二年）に接触し、同人を現場に転倒死亡させるといふ事案が発生した。

これがいわゆるカーブミラー運動のはじまりだ。このとき、クルマにひっかけられた柳田さんに対して、事故現場を目の当たりにした東田町派出所の巡査が、柳田さん運転をとらなかつたことに、事故の目撃者や、聞きつたうえで集った多勢が怒り、抗議し、そこからだんだん一騒動といふことになって行った。

消えさしたものは、その東田町派出所のまわりの小さな建物である。西町交差点の東南の角

喫茶店の丸や、立ちのみ屋や、登記事務所や氷屋のあるところに、大竹前から東田には使わなかつたボリ・ボリ・ボリスがあったのさ、おぼえている人はたくさんいる筈だ。

この柳田さんの死からはじまった一騒動が、金ヶ崎の労働者に一つの自覚を与えたのだから



なかだけになつてくるときだから、派出所は現在、交差点の北東の角、受降家の建地に付属して、新宮客駅の裏向にある。これはもう、まるく小さくはない。

(寺)

資料・第一次金ヶ崎暴動

その(一)鎮圧論

八月一日

午後九時十五分、東田町派出所前までヤ街の住人柳田豊造さん（ホシ）がタワシ―にはねられた。「即死に近い状態」へ（警察発表）でパトカーの到着が二十分おくれたため日暮いなど住民二百人集まわく。同十一時、派出所前、二日午前、同半群集千人を要す。タワシ―に火をつけられ、同二時、東田町派出所前が炎上、暴徒と化し西成区を襲つて投石の雨。三時十

五分パトカー、機銃車も北上。前夜も朝までなし。（不詳警察隊、逮捕者三〇名、動員、色徒警察官五九九／一二一名）

●五里初五野面橋署長
あの派出所は、ヤ街のまん中で、町になれはいつとも百人を収めるの波瀾がタム口してよく、騒ぐところだ。しかし道路に人が集まると、集まっているからといふだけで、はるばるのことでも、警察として対処するだけの手を打った。